

令和4年度決算のあらまし

令和4年度の伯耆町一般会計及び特別会計の決算状況をお知らせします。

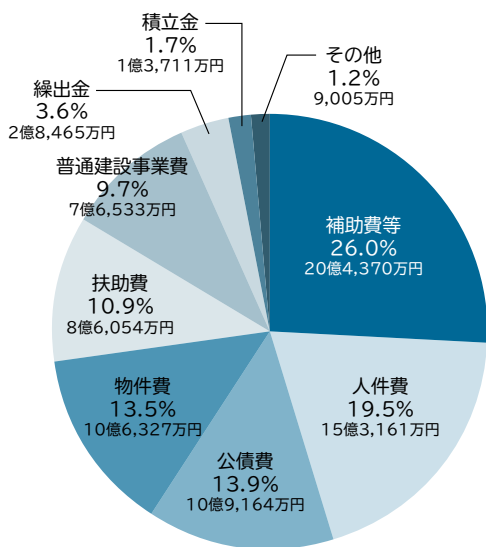
1. 一般会計

令和4年度の伯耆町一般会計決算は、前年度決算額に対して、歳入では5,097万円、歳出では5,070万円の増額となり、実質収支は5億450万円の黒字となりました。

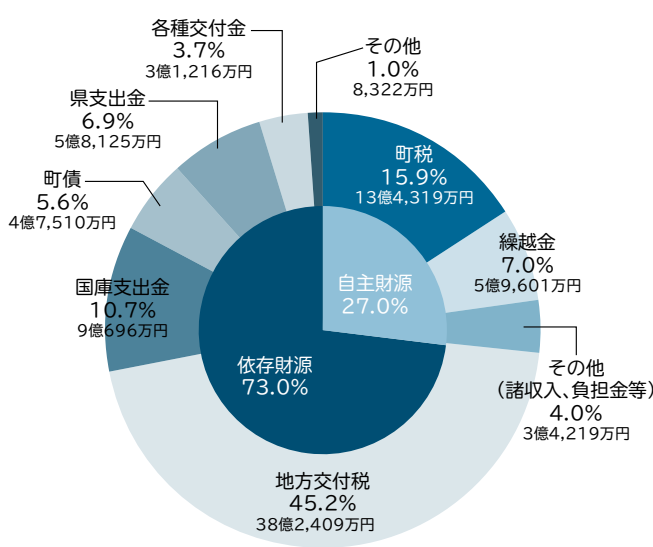
新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けている地域経済や住民生活を支援するため、各世帯へのガソリン等購入助成券の配布、上下水道料金の減免、学校給食費補助をはじめとした、地域の実情に応じた事業を実施しました。また、乳児家庭保育支援等による子育て環境の整備、少人数学級実施によるきめ細やかな学習指導体制の整備、町道改良などのインフラ整備等も引き続き実施しました。

事業の実施にあたっては、国や県からの補助金や各種助成金、ふるさと納税等を積極的に活用するとともに、交付税措置のある財政的に有利な地方債も活用することで、健全な財政運営や将来の財政負担の軽減に努めました。

歳出(支出) 総額 **78億6,790万円**
(令和3年度比0.6%増)



歳入(収入) 総額 **84億6,418万円**
(令和3年度比0.6%増)



特徴的なもの

- 扶助費：障害福祉サービス利用者増などにより、1億4,114万円増額。
- 補助費等：物価高騰の影響を受けた家庭を支援するため、「ガソリン等購入助成券配布事業」の実施などにより、3,707万円増額。
- 公債費：低い利率で借入することを目的に借入期間の短縮をしたため、1年あたりの返済額が増額となり、1億322万円増額。
- 積立金：公共施設整備のための基金積立額の減少などにより、2億1,859万円減額。

特徴的なもの

- 町税：大規模太陽光発電施設の新設などにより固定資産税が増額となり、町税全体で6,515万円増加。
- 国庫支出金：子育て世帯への臨時特別給付金給付事業の完了などにより、1億1,238万円減少。
- 地方債：普通建設事業の減少などにより、4,400万円減少。

実質収支5億450万円は、翌年度(令和5年度)にガソリン等購入助成券配布事業等に活用します。

一般会計収支

区分	歳入額 ①	歳出額 ②	歳入歳出差引③ (①-②)	翌年度へ繰り越す べき財源④	実質収支 (③-④)	単年度収支 (ア-イ)
令和4年度(A)	84億6,418万円	78億6,790万円	5億9,628万円	9,178万円	ア5億 450万円	1億6,962万円
令和3年度(B)	84億1,321万円	78億1,720万円	5億9,601万円	2億6,114万円	イ3億3,488万円	△9,126万円
増減(A)-(B)	5,097万円	5,070万円	27万円	△1億6,936万円	1億6,962万円	2億6,088万円

目的別の支出額

科目 目的別支出の総額
1人当たりの支出額
具体的な支出の内容

総務費 13億5,691万円
13.1万円
行政組織の維持管理、徴税、戸籍など

民生費 23億8,514万円
23.0万円
高齢者、障がい者福祉、保育所運営など

衛生費 7億4,088万円
7.1万円
住民健診、ごみ処理、上水道の管理など

農林水産業費 6億2,909万円
6.1万円
農業振興、農地保全、林業振興など

商工費 1億6,727万円
1.6万円
商工業、観光振興など

土木費 5億 897万円
4.9万円
道路の整備、河川、下水道の管理など

消防費 2億3,309万円
2.2万円
消防団活動、防災対策など

教育費 6億4,947万円
6.3万円
学校教育、社会教育、学校給食など

災害復旧費 1,168万円
0.1万円
災害によって生じた被害の復旧

公債費 10億9,164万円
10.5万円
借金返済

※数値ごとに四捨五入しているため、合計が合致しない場合があります。

新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用した主な事業

- ▶ 上下水道料金免除等支援…………… 7,453万円
- ▶ ガソリン等購入助成券配布事業…………… 1億350万円
物価高騰などの影響を受けている各家庭を支援するため、上下水道料金の減免、ガソリン等購入助成券の配布を行った。
- ▶ 伯耆町宿泊等支援事業…………… 6,179万円
町内宿泊施設等を利用された方に1,000円のクーポン券を発券し集客効果を高めた。
- ▶ 給食センター管理事務費（学校給食費補助金）…………… 2,861万円
1食あたり200円補助（うち150円に臨時交付金を充当）
- ▶ 公園管理費（ボルダリングスペース整備）…………… 935万円
三密を防ぐため、総合スポーツ公園に新たな遊具を設置



ガソリン等購入助成



学校で提供している給食



新設されたクライミング遊具

2. 特別会計

特別会計は、町が特定の事業を行う場合に一般会計とは区分して経理するために設けている会計です。保険料や料金収入等による独立採算を原則としますが、会計によっては一定のルール等に基づいて一般会計が繰出（負担）を行っています。

(単位：万円)				(単位：万円)	
会計名	歳入	歳出	差引	伯耆町水道事業会計 (企業会計)	決算額
伯耆町町営公園墓地事業特別会計	1,022	112	910	収益的収入(税込)	42,026
伯耆町住宅新築資金等貸付事業特別会計	33	2,339	△ 2,306	収益的支出(税込)	27,611
伯耆町地域交通特別会計	11,388	11,388	0	資本的収入	9,941
伯耆町国民健康保険特別会計	143,867	137,089	6,778	資本的支出	22,747
伯耆町後期高齢者医療特別会計	16,075	15,968	107	伯耆町下水道事業 会計(企業会計)	決算額
伯耆町丸山地区専用水道事業特別会計	885	885	0	収益的収入(税込)	50,479
伯耆町浄化槽整備事業特別会計	1,881	1,881	0	収益的支出(税込)	48,081
伯耆町索道事業特別会計	3,228	4,334	△ 1,106	資本的収入	25,510
鳥取県西部町村情報公開・個人情報保護 審査会特別会計	60	8	52	資本的支出	34,765
合計	178,439	174,004	4,435		

3. 健全化判断比率

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づいて、令和4年度決算にかかる健全化判断比率の算定結果をお知らせします。

各比率は地方公共団体の財政の健全性を表しており、伯耆町はいずれの比率も健全段階に位置しています。

比率区分	伯耆町の比率		早期健全化 基準	財政再生 基準
	4年度	3年度		
実質赤字比率	－	－	14.77	20.0
連結実質赤字比率	－	－	19.77	30.0
実質公債費比率	6.8	6.7	25.0	35.0
将来負担比率	－	－	350.0	

実質赤字比率

一般会計等の実質赤字額の、標準財政規模（人口、面積等から算定する当該団体の標準的な一般財源の規模）に対する比率です。

「－」は、実質赤字が生じていないことを表しています。

連結実質赤字比率

町全体での実質赤字額（または資金不足額）の、標準財政規模に対する比率です。

「－」は、実質赤字が生じていないことを表しています。

実質公債費比率

町全体の公債費等の、標準財政規模に対する比率で、過去3か年の平均で示されます。言い換えると、1年間の収入に対する借金返済の負担割合です。18%を超えると借金するために許可が必要となりますが、伯耆町の数値は大幅に下回っています。

将来負担比率

一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の、標準財政規模に対する比率です。

「－」は、現在の預金等で地方債（借金）をはじめとする将来的な負担をカバーできることを表しています。